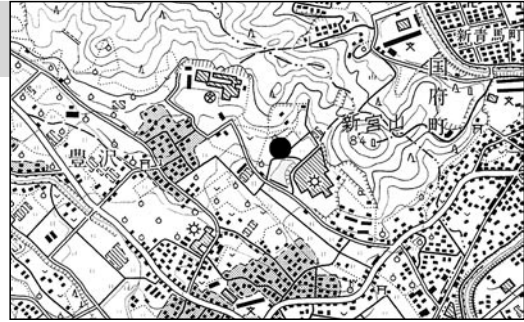


こうさか
高坂遺跡

所在地 宝飯郡御津町大字広石
(北緯34度49分48秒 東経137度18分58秒)
調査理由 県道大塚国府線道路改築
調査期間 平成16年10月～平成17年2月
調査面積 1,700㎡
担当者 宮腰健司・松田 訓



調査地点 (1/2.5万「小坂井」)

調査の経過 発掘調査は、県道大塚国府線道路改築予定地内における事前調査で、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成10年度に範囲確認を、平成11年8月から12月にかけて本調査を実施しており、今回は、平成11年度調査区のさらに北東側における道路建設予定地を、平成16年10月から翌年2月にかけて実施した。調査面積は、1700㎡である。

立地と環境 高坂遺跡は、JR東海道線愛知御津駅より北西約2kmの、宝飯郡御津町大字広石地内に所在する。調査地点は、南に向かってゆるやかに下る舌状の丘陵地に立地し、標高はおおよそ34m～38mを測る。調査地の北西には、古墳時代を主体とする石堂野遺跡、南西の浅い谷をはさんだ台地上には、弥生時代末から古墳時代を主体とする石堂野B遺跡、北東には、広石銅鐸出土地などが近接する。

調査の概要 調査地の旧態は畑地及び雑木林で、耕作土、表土10～30cmを機械掘削によって除去した。これに続いて現況では、自然形成された斜面を段状に造成し、排水用の溝が掘削されていたため、盛土を除去した。この時点で、一部に遺物包含層と考えられるにぶい黄褐色シルト層を残すも、基盤層と考えられるにぶい赤褐色粘土等が大部分で露呈したため、シルト層を掘り下げつつ遺構検出作業を行った。

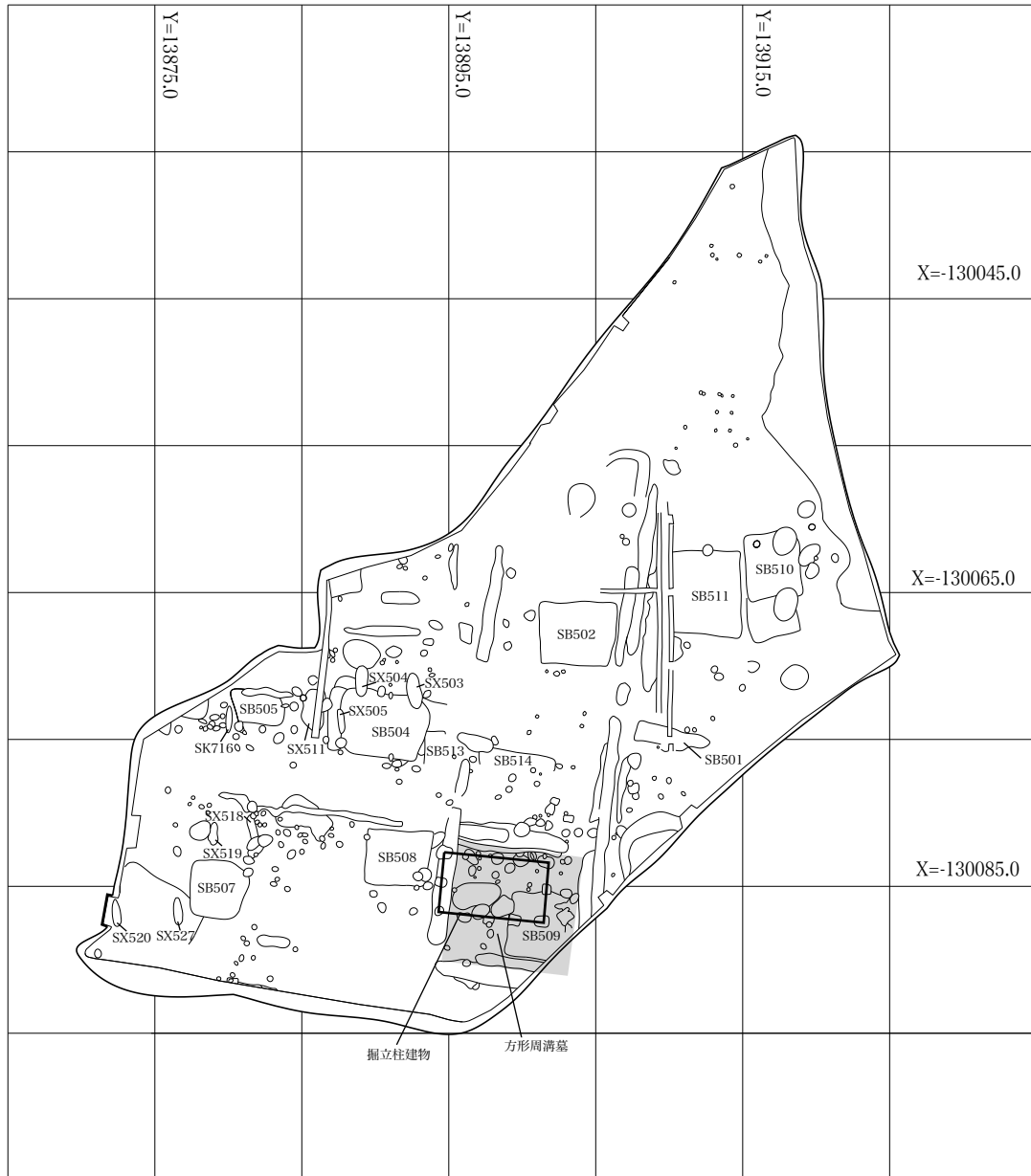
検出された遺構は、方形周溝墓1、土坑242、火葬土坑9 (SX・SK)、溝2、竪穴住居15、掘立柱建物1他である。これらの遺構の時期は、方形周溝墓は欠山式と思われる壺が溝から出土し、竪穴住居は古墳時代後期～古代の遺物がわずかに含まれていたが、全体的に遺構に伴って出土するものが少なく、現在整理検討中である。 (松田 訓)



調査区全景 (南西から)



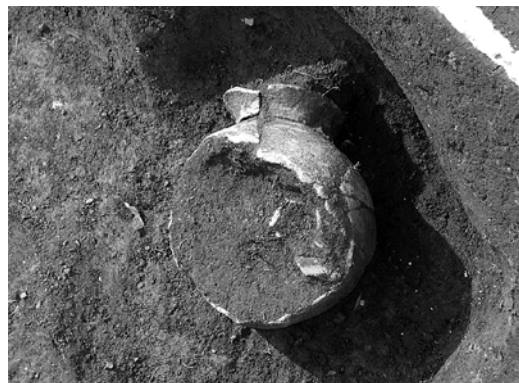
竪穴住居 (SB502)



主要遺構配置図



方形周溝墓・掘立柱建物



方形周溝墓西周溝内出土壺